

HIV 感染症と HIV 透析ネットワークの意義

帝京平成大学健康医療スポーツ学部 教授

日ノ下 文彦 先生

累計の HIV 感染症数はいまだに増加しており、東京都や大阪府をトップグループとすると、長野県は神奈川県、埼玉県、愛知県といった他の大都市圏（第2グループ）に次ぐ HIV 感染者を抱えている（第3グループ）。

HIV 感染者の予後は格段に改善したので、感染者数が多いということは将来 CKD から血液透析導入となる HIV 感染患者も比較的多いと予想される。しかし、長野県に限らず感染者数が多い都府県でも HIV 感染透析患者の受入れは十分に進んでいなかった。例えば、最も感染者数が多い東京都内でさえ、数年前までは、透析導入後の受入れ先（サテライト）を見つけるのに一苦労していた。

そこで、現状を打破するため、2019 年から厚生労働省「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班」は、HIV 透析ネットワークを構築する方針を打ち出した。そして、日本透析医会の協力を得て、透析医会の各都府県支部（北海道と群馬県は既存）にネットワーク構築を依頼した。しかし、COVID-19 の蔓延もあって構築作業は停滞しており、2020 年以降 新たにネットワークを構築したのは3つの都県に過ぎない。

もともと HIV 患者の受入れや透析ネットワーク構築が進まない原因は、主に HIV 感染症に対する誤解や偏見、認識不足にあると思われる。2019 年、厚生労働省研究班はとても便利な「HIV 感染透析患者医療ガイド改訂版 2019」を作成して全透析施設に配布したほか、HIV 感染症自体が抗レトロウイルス療法（antiretroviral therapy, ART）により容易にコントロールできる慢性感染症となっているので、実は他の感染症（ウイルス性肝炎や COVID-19 など）と比べても技術的に受け入れやすい感染症となっている。従って、将来、HIV 感染透析患者の維持透析施設（サテライト）がスムーズに見つかり気安く受入れられる環境を整えるため、長野県でも是非 HIV 透析ネットワークを構築して頂ければ有難いと考えている。

ひのした ふみひこ
日ノ下 文彦 先生 略歴

【学歴・職歴】

- 昭和 56 年 3 月 東京医科歯科大学医学部卒業
昭和 61 年 3 月 東京医科歯科大学大学院医学研究科博士課程修了
(医学博士)
昭和 61 年 4 月 東京医科歯科大学第二内科医員
平成 3 年 2 月 ハーバード大学医学部病理学教室客員研究員
平成 4 年 7 月 虎の門病院腎センター内科医員
平成 8 年 4 月 東京理科大学薬学部非常勤講師(平成 9 年 3 月まで兼務)
平成 9 年 6 月 平塚共済病院腎臓内科医長
平成 10 年 6 月 国際医療福祉大学臨床医学研究センター助教授
平成 14 年 4 月 国立国際医療センター腎臓内科医長
平成 21 年 6 月 国立国際医療センター腎臓内科診療科長(科長制実施に伴う)
平成 21 年 7 月 HIV 感染患者透析医療ガイドライン策定グループ委員 兼務
平成 22 年 4 月 国立国際医療研究センター(改称)腎臓内科 科長
平成 23 年 4 月 透析医会 医療安全対策委員会感染防止対策部会委員
(「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン(四訂版)」「同(五訂版)」
作成 委員) 以後、継続
平成 25 年 4 月 厚労省「腎臓機能障害の高齢化に伴う支援のあり方に関する研究班」班長
(平成 28 年 3 月まで)
平成 26 年 4 月 厚労省「サリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態の諸問題に関する研究班」班長
(平成 29 年 3 月まで)
平成 28 年 4 月 厚労省「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班」研究分担者(平成 30 年 3 月まで)
平成 29 年 4 月 厚労省「サリドマイド胎芽症患者の健康、生活実態の把握及び支援基盤の構築 研究班」班長
(名称変更、令和 3 年 3 月まで継続)
平成 30 年 4 月 厚労省「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班」研究分担者
(所属班の変更、現在に至る)
平成 30 年 8 月 日本透析医学会感染調査小委員会委員
令和元年 6 月 Editor-in-Chief, Medical Journal of Clinical Trials & Case Studies (MJCCS)
令和元年 12 月 東京都 HIV 透析ネットワークプロジェクト 委員長
令和 2 年 8 月 日本透析医学会感染対策委員
令和 3 年 3 月 国立国際医療研究センター腎臓内科 科長 定年退官
令和 3 年 4 月 帝京平成大学健康医療スポーツ学部看護学科 教授(現在に至る)

【学会・研究活動】

- 内科学会、腎臓学会(功労会員)、透析医学会、高血圧学会、糖尿病学会、急性血液浄化学会、
American Society of Nephrology、International Society of Nephrology など
その他：IgA 腎症研究会研究助成(平成 5 年)、島原科学振興財団研究助成(平成 7 年)、文科省科学研究費補助金(過
去数度)、国際協力医学研究振興財団調査研究助成(平成 19 年)、国際医療研究開発費(平成 26~29 年)、透
析医会研究助成(平成 22 年) など
Lead Guest Editor, Special Issue on “Hemodialysis-Associated Problems to solve: Current and Future”
of the Scientific World Journal (平成 25 年)

【趣味】

- 語学(英検 1 級、仏検 3 級)、旅行